



一般社団法人菊地誠 22 世紀医美支援事業団
理事長 菊地 誠

医美同源デザインアワード受賞者 から手縫いマスク寄贈のお知らせ



全て手で縫製されたマスクには猫があしらわれています。大きさは大中小の3つ。

“入院中の患者さんの暮らしを今より豊かにするために”をコンセプトに、2015年に開始した医美同源デザインアワード「入院生活を豊かにするデザイン」。この度、昨年度の第5回目のデザインアワードで優秀賞を受賞された神奈川県永塚恭子様より、金沢西病院に手縫いマスク20枚を寄贈頂きました。同封の手紙には、「医療現場の方達の通勤や、プライベートなどでお使い下さいませ。

どうかお体大切に、そして一生懸命患者さんと向き合ってください。」との心温まるメッセージを頂きました。

永塚恭子様は、第5回医美同源デザインアワードに応募があった国内外の80作品より審査会を通じて選ばれた9名の受賞作家のうちの1人です。

受賞した作品「もし入院生活にも猫がいたなら」は、入院生活中に患者さんが楽しみながら心と体のリハビリができることをコンセプトに、布、毛糸、レース糸、フェルトなど、手触りが異なる様々な素材を手縫いしてつくった猫の作品です。



作品タイトル「もし入院生活にも猫がいたなら」

猫を立たせたり、座らせたり、ベッドの柵にひっかけてぶら下げたりなど、触ったり動かしたりすることで、手をつかったりハビリになればという願いも込められています。

今回お送りいただいたマスクにも猫があしらわれ、医療現場に携わる皆様を応援したい、という永塚さんの気持ちや、患者さんが少しでも楽しくなればという思いがマスクにこめられているかのようです。

勇気と元気をありがとうございました！



金沢西病院 看護部一同

（一社）菊地誠 22世紀医美支援事業団の理事長菊地誠先生は、私達の金沢西病院の名誉理事長でもあります。毎年雪がちらつく季節に行われる「シンポジウム」には20～30人の看護師が参加し、医療と美術・芸術・工芸等、これまで考えもしなかったステージの方々とのコラボレートが患者様達への「癒し」や「想いやり」に繋がってゆくことがわかり、本当に楽しくワクワクしています。

今回、新型コロナウイルスの猛威にさらされているなか、永塚様からココロとカラダを守ってくれる大きな、大きな贈り物を頂きました。私達はナースとしての信念を持ち続け、この「勇気のマスク」で患者様のために頑張ります。本当にありがとうございました。